【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

ありがとう税金

熊本大学教育学部附属中学校

二年 平山 琴野

つい最近、私の税に対する意識がガラリと変わる出来事があった。

私の叔父は私たちと離れた場所に住んでいる。そんな中、ある日突然倒れて救急車で搬送された。私の父と母は急いで病院に向かった。叔父は、危うく命を落とすところだったが、なんとか一命を取り留めたようだ。倒れた原因は心筋梗塞とのことだった。一命は取り留めたものの、手術のためそのまま入院することになった。私は学校から帰ってきてそのことを聞くと「入院中の給料はどうするの?」「手術料はどうやって払うの?」などと疑問が湧いた。

まず、入院中の給料について母に聞いてみた。すると、叔父は正社員なので有給休暇というものがあると分かった。

「労働を免除されるけど、給料はもらえる有給休暇があるから仕事を休んでも大丈夫。」と言われて安心した。

次に手術料について。心筋梗塞では管を入れたり、血管を取り替えたりして手術をするので高額な費用がかかる。そんな時に助けてくれるのが「高額医療費制度」。医療費の自己負担額が一ヶ月で一定額を超えた場合に、その超えた金額を健康保険から払い戻しされる制度のこと。

このような社会保障制度は保険料で負担することが基本だが、それだと働く世代に負担が集中してしまう。そのため税金が使われるのだ。税金の中でも消費税が財源となっている。その理由はあらゆる世代が公平に分かち合うため。誰もが生きるために物を買う。もちろん私もお菓子、衣服など様々なものを購入する。その時につく税が消費税。みんなでお互いを支え合おうというのだ。社会保障制度には、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生の四つの柱があり、国の歳出の約三分の一を占める。私たちが納めた税の多くは、社会保障に使われているのだ。

現在、増え続けるコロナ患者。実は、税金はこのコロナとも深い関りがあった。少し前に、私たちのために一生懸命働いている医療従事者に補助金が出された。この補助金にも税金が使われたのだ。税金の幅広い使われ方を知る。

私の叔父そして父、母、私は今まで税金を払うだけだった。だから私は正直「どうしてそのものの値段に加えて税金を払わなくてはならないの?」と思っていた。しかし今回の叔父のことやコロナのことなどで税金を払うことの意味を実感するとともに、この税金制度のありがたみも感じた。

これからは自分のため、そしてみんなのために喜んで納税をしよう!